

平成29年度
(2017年度)

「空の日」

中学生海外主要空港派遣事業

7/24(月) ~ 7/29(土)

Seattle・Phoenix・Los Angeles

= 研修レポート =



「空の日」・「空の旬間」実行委員会

事務局： 一般財団法人日本航空協会
事業委嘱・編纂： 公益財団法人JAL財団



目 次



| | | |
|----|---|----|
| 1. | はじめに | 1 |
| 2. | 7月24日(月)～7月29日(土) 旅程 一覧 | 2 |
| 3. | 研修写真 | 3 |
| 4. | 研修レポート | |
| | 「より良い空港のために感じて考えたこと」 井上 隆太 横芝光町立横芝中学校 3年 | 15 |
| | 「私の世界が広がった旅」 奥田 愛梨 山武市立松尾中学校 3年 | 17 |
| | 「飛行機一機が飛ぶために」 佐久間 詩織 芝山町立芝山中学校 3年 | 20 |
| | 「広がる夢」 高橋 里 香取市立小見川中学校 3年 | 22 |
| | 「僕にとっての中学生海外研修」 平山 健太郎 多古町立多古中学校 3年 | 24 |
| | 「将来の夢への第一歩」 古山 高男 稲敷市立新利根中学校 3年 | 26 |
| 5. | 編集後記 引率者より メッセージ 成田国際空港株式会社 (NAA) 高野 裕子 公益財団法人 JAL財団 添乗員 上野 友子 公益財団法人 JAL財団 リーダー 浜崎 明美 | 28 |
| 6. | 「空の日」中学生派遣事業一覧 | |

1. はじめに

「空の日」・「空の旬間」実行委員会では、「空の日」(9月20日)記念事業の一環として、次世代を担う中学生を海外主要空港へ派遣し、空港や航空関連施設の見学を通じて、空港と航空への関心と理解を深めてもらい、視野の広い若者へと育成することを目的として、1990年度(平成6年度)より“中学生派遣事業”を実施しています。これまでに420名の皆さんが参加されるにいたっておりますが、24回目の実施となった今年度は6名の代表中学生を、アメリカのシアトル、フェニックス、ロサンゼルスへ派遣しました。

この研修レポートは、その皆さんが研修終了後に書かれた作文を中心に取り纏めたものです。空港の主要な施設、ボーイング社工場、運航乗員訓練所、運航乗務員・客室乗務員の仕事を見学することにより空や空港について考え、また、現地の学生と国際交流の素晴らしさを体験したことが、参加された皆さんの国際的な視野と将来の夢を広げる一助となっていれば幸いです。

なお、今年度の事業が所期の成果を挙げ、無事に終了できましたことは、ひとえに企画、そして受入に全力を傾けてくださった関係各位のご協力、ご支援の賜物です。

成田国際空港(株)の皆様、(株)JALグランドサービスの皆様、ボーイング社エバレット工場の皆様、カミアックハイスクールの皆様、ロサンゼルス空港の機内食工場の皆様、JALフェニックス運航乗員訓練所、ANA、JALの各シアトル・ロサンゼルス支店、両社の各運航・客室乗務員の皆様、ボーイング社・機内食工場の見学をご手配くださったJALの皆様がこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

2017年度「空の日」記念事業の一環として作成されたこの研修レポートが、皆さまの今後の事業推進におけるご参考となれば幸甚です。

2. 7月24日(月)～7月29日(土) 旅程 一覧

| | | | |
|-------------|---------|---------------------|--|
| 7/24 (月) | | 13:30 14:00 | 成田空港にて研修開始式、 成田空港施設見学 |
| | 東京(成田)発 | 18:05 | NH(全日空)178便にてシアトルへ 機内で客室乗務員の話聞く |
| | シアトル着 | 11:25 | |
| | | | 市内見学(パイクプレイスマーケット～スペースニードル) シアトル泊 |
| 7/25 (火) | | | ボーイング社エバレット工場見学 現地学生と一緒に航空博物館見学と昼食懇親会 |
| | シアトル発 | 17:59 | AA(アメリカン航空)1280便にてフェニックスへ |
| | フェニックス着 | 20:50 | フェニックス泊 |
| 7/26 (水) | | 09:00 ～ | JAL フェニックス乗員訓練所見学 |
| | | | セドナ見学 フェニックス泊 |
| 7/27 (木) | フェニックス発 | 08:40 | WN(サウスウエスト航空)2093便にてロサンゼルスへ |
| | ロサンゼルス着 | 10:10 | 到着後、機内食工場見学 昼食:JAL ビジネスクラス機内食 |
| | | | ユニバーサルスタジオ見学 ロサンゼルス泊 |
| 7/28 (金) | | 08:30 11:15 ～ | 研修の振り返り JL061便の乗務員と対面 ロサンゼルス空港施設見学 |
| | ロサンゼルス発 | 13:45 | JL(日本航空)061便にて東京(成田)へ 機内で客室乗務員の話聞く 機内泊 |
| 7/29 (土) | 東京(成田)着 | 16:55 | 到着後、解散式 |

3. 研修写真

第 1 日 目 7 月 24 日 (月)

| | | | |
|-------------|---------|----------------|---|
| 7/24 (月) | | 13:30 14:15 | 成田空港にて研修開始式、 成田空港施設見学 |
| | 東京(成田)発 | 18:05 | NH(全日空)178 便にてシアトルへ 機内で客室乗務員の話聞く |
| | シアトル着 | 11:25 | 着 |
| | | | 市内見学(パイクプレイスマーケット、スペースニードル等) シアトル泊 |

◆成田空港にて研修開始



◆成田空港施設見学 成田国際空港(株)・(株)JAL グランドサービスの皆さんの案内 B787 機見学



旧コントロールタワー見学



花時計にて

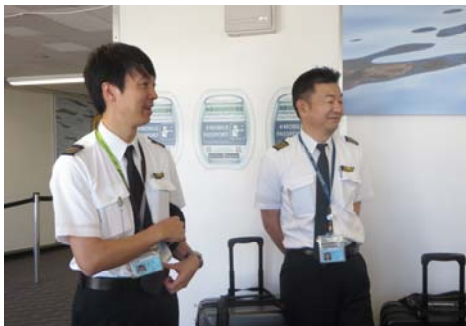


◆乗務員の仕事をを知る



◆シアトル空港到着

NH178 便にてシアトルへ(所要時間:9 時間)



ANA 支店、NH178 便 乗務員の皆さんと一緒に。



◆シアトル市内見学

スペースニードル



ガムウォール



レーニア山 (Mount Rainier)

標高 4392 メートル



パイクプレイスマーケット



第 2 日 目 7 月 25 日 (火)

| | | | |
|-------------|---------|-------|---|
| 7/25 (火) | | | ボーイング社エバレット工場見学 現地カミアック高校の皆さんと一緒に航空博物館見 学と昼食懇親会 |
| | シアトル発 | 17:59 | AA(アメリカン航空)442 便にてフェニックスへ |
| | フェニックス着 | 20:50 | フェニックス泊 |

◆ ボーイング社エバレット工場見学





◆現地学生(Kamiak High School)との交流



Kamiak High School 訪問 お揃いの T シャツで記念撮影



第 3 日 目 7 月 26 日 (水)

| | | |
|-------------|------------|---------------------|
| 7/26 (水) | 09:00 ～ | JAL フェニックス運航乗員訓練所見学 |
| | | セドナ見学 |

フェニックス泊

◆JAL フェニックス運航乗員訓練所見学

訓練機の操縦席体験



シミュレーター体験 JAL 教官の皆さんと。



◆セドナ見学



第 4 日 目 7 月 27 日 (木)

| | | | |
|-------------|---------|-------|--------------------------------------|
| 7/27 (木) | フェニックス発 | 08:40 | WN(サウスウエスト航空)2093 便にてロサンゼルスへ |
| | ロサンゼルス着 | 10:10 | 到着後、機内食工場見学 昼食:JAL ビジネスクラスの機内食を試食 |
| | | | ユニバーサルスタジオ見学 ロサンゼルス泊 |

◆ロサンゼルス空港到着後、機内食工場“フライングフードグループ”見学



厳重な衛生装備で見学

昼:JAL ビジネスクラスの食事を試食





◆ユニバーサルスタジオ見学



第 5 日 目 7 月 28 日 (金)

| | | | |
|-------------|-------------|-------|---|
| 7/28 (金) | | 08:30 | 研修の振り返り |
| | | 11:15 | JAL 乗務員と対面 ロサンゼルス空港施設見学 |
| | ロサンゼルス 発 | 13:45 | (日本航空)JL061 便にて東京(成田)へ 機内で客室乗務員の話聞く 機内泊 |

◆研修の振り返り



◆ロサンゼルス空港研修

JAL 支店、JL061 便 運航乗務員の皆さんと一緒に。



◆乗務員の仕事をを知る



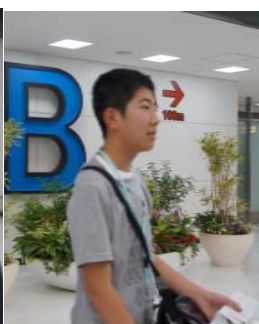
JL061 便 客室乗務員の皆さんと一緒に。



第 6 日 目 7 月 29 日 (土)

◆16:55 JL061 便 成田到着

◆解散式



4. 研修レポート

「より良い空港のために感じて考えたこと」

横芝光町立横芝中学校 井上 隆太

今回の研修旅行はアメリカのことや飛行機、空港のことなど沢山のことを知るきっかけになりました。今回の研修旅行だけでも沢山のことを知れたのですが、研修の後、「そういえばここはどうなのだろう」、「アメリカではこうだったけど、日本はどうなのだろう」と研修を思い返している内に沢山疑問が出てきました。

僕は日本の空港、航空にはアメリカの空港、航空にはない 3 つの良いところを見つけることができました。まず 1 つ目に空港内がとても綺麗だということです。日本の空港は基本的に待ち合い席や床には全くと言っても良いほどゴミがありません。僕はこれを空港で働いている方々だけのおかげだとは思いません。利用している方々も空港で働いている方々も皆がきれいにしようとしているからなのだと感じました。

次に 2 つ目です。空港で働いている方々がとても丁寧なことです。これは 1 つ目の空港内がとてもきれいということにもつながるのですが、例えば自分が立っていて空港で働いているかたが脇を通るときに、

「すみません、通してもらってよろしいでしょうか。」

そして、道を開けたあとに、

「ありがとうございます。」

と笑顔で言ってくれるのです。それだけでも僕はすごく丁寧だと思います。他にも、理由は 2 つあります。僕はアメリカに行くときの便で具合が悪くな



ったときにアテンダントさんが丁寧に対応してくれたことがありました。日本に来た外国人の方に場所を聞かれたときにも、通じる言葉でそこまで付いて行ってあげていることもあります。いつも笑顔で丁寧に対応していて、どんな人でも困ることなく快適だろうなと思いました。

最後に 3 つ目です。これは僕個人の話かもしれないのですが、日本人の方がパイロットのときのフライトの方が快適に感じました。理由としては離陸時、飛行時、着陸時どれもアメリカで搭乗したときよりも体に負担がかかるようなこともなく、揺れることも少なかったからです。今回の研修旅行では行きを全日空 (NH178) と帰りを JAL (JL061) とで 2 回のフライトで日本人の方がパイロットでした。アメリカの国内線は 7 月 25 日の

アメリカン航空(AA1280)と7月27日のサウスウエスト(WN2093)との2回のフライトで



外国人の方がパイロットでした。計4回飛行機に搭乗しました。行き帰りは搭乗時間が長かったのですが、個人的にはアメリカでの国内線より行き帰りのほうが快適でした。

もちろんですがアメリカの空港、航空のほうが日本の空港、航空より良いところは見つけています。こちらの良い点を3つ上げたいと思います。

います。

1つ目は待ち合い席が多いことです。日本の空港は待ち合い席が少なくとても窮屈な感じがするのですが、アメリカの空港はそんなことは無くてとても広々とした感じがありました。ただ、アメリカの空港の待ち合い席は食べカスだったり、ペットボトルが落ちていたりと衛生面や美しさという点ではやはり日本は優れていると感じました。

次に2つ目です。これは機体が違うからということもあるかもしれませんが飛行機内でのシートでは、日本のシートよりもアメリカのシートのほうが座り心地が良かったのです。僕は基本的に機内に居るときは寝ようとするのですが、アメリカのシートのほうがすぐにスッと眠ることができるし、楽に座っていることができました。ですがやはりこちらもなんだが食べカスなどが散乱していて日本のものより汚く感じました。

最後に3つ目です。アメリカの空港では車椅子を利用している方を多く見ました。僕はこれをとっても不思議に思いました。日本では大抵、車椅子を利用している方は足が不自由な方、足を怪我してしまった方などその他にもサポートが必要な方がほとんどです。そして、押している人も身内の方と思われる方です。しかし、アメリカの空港では利用している方も、パッと見歩けそうな方じゃないかなと思う人が多く、押してあげている方は従業員の作業着のようなものを着ている方でした。車椅子も空港側で用意されているもののように思いました。余りにも不思議で気になっていたのでインターネットで検索してみるとどうやらアメリカでは1990年に制定されたアメリカ障害者差別禁止法のおかげで車椅子が気軽に利用できるようです。日本でも似たようなものがないかと調べてみたところ「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」というものがありました。またサポートについては「日本国政府や地方公共団体・独立行政法人・特殊法人などは、障害者への合理的配慮に対策を取り込む事を法定義務するが、民間事業者については、「努力義務」である。特に必要があると認めるときは、国は対応指針に定める事項について、当該事業者に対し、報告を求めることがある」とも記載されていました。日本でもそのようなことがあったとは知らなかったのですが、調べていく内にこんなことが起きていたのを知りました。

「格安航空バニラエアが6月5日、奄美空港で「歩けない人は乗れない」として、下半身不随の男性が車椅子に乗った状態で搭乗することを拒否した。これを受けて男性は、車椅子を降りて腕の力でタラップをよじのぼって搭乗した。」

衝撃でした。ひどすぎるし、車椅子での搭乗拒否、ではなく、乗れない、とされていてとても嫌な気持ちになりました。

僕は今後こんなことが二度とおきなければ良いと思います。なぜなら、3年後には東京オリンピック、パラリンピックが開かれる予定です。その時には沢山の方が成田空港を利用すると思います。そんな時に乗れないとなってしまうと現地で観戦できない人が多くなってしまうと思います。その時まで、外国の空港でも、国内の空港でも、いろいろな良いところを取り入れ足が不自由な人でもいろいろな人がオリンピックに熱狂できるように、世界一利用しやすい空港になってほしいと思います。

「私の世界が広がった旅」

山武市立松尾中学校 奥田 愛梨

「行ってきます！」研修開始式でのこのかけ声から私たちの4泊6日の旅が始まりました。

私は幼い頃から空港が好きで、世界中の空港を行き来し、多くの人々を運ぶ航空機に憧れを抱いていました。そのため、今回の事業で航空機に関わる様々な施設を見学し、関係者の方々からお話を聞くことができ、本当に貴重な体験が出来ました。

事前説明会の時に連絡先を交換し、連絡を取り合っていたものの、あまり話をしたことのない5人の仲間と6日間、一緒に過ごしていけるのか不安を抱えたまま研修初日を迎えました。しかし、それぞれの学校生活や部活動、趣味などの話題で会話がはずみ、自然と親しくなれました。

初日の成田空港施設の見学で、滑走路の奥にある白い筒状のタンクの中に燃料が溜められていることを知りました。その燃料は、千葉の港から成田空港までおよそ40kmの距離を地下のパイプで運ばれてくることを知り驚きました。また、研修2日目に行ったボーイング社エバレット工場からつい先日送られてきた真新しい航空機「JA869J機」を間近で見ることができました。1機の航空機が完成するまで多くの人々がそれぞれ担当するパーツを丁寧に組み立て確認している様子を見て裏方で支えている方がいることを改めて感じました。

見送りに来てくれた家族と出発ゲートで別れ、全日空「NH178便」でシアトルに向かいました。ドリンクサービスと夕食後、航空機内のギャレーでCAさんからの話を聞



いたり、エプロンやスカーフ、ジャケットなどを試着させてもらいました。私は、CAさんが機内で乗客にサービスを提供する時の様子には、落ち着いた雰囲気でおしとやかなイメージを持っていましたが、実際にお話をしてみると冗談交じりに楽しくお話をしてくださり、親しみやすさを感じました。

シアトルに到着後、日本との時差が16時間あり、眠気が残っていましたが、目にするものすべて新鮮だったので市内観光をしているうちに自然と目が覚めていました。魚を投げてパフォーマンスをする魚屋さんや一度噛んだガムを壁にはりつけるガムウォールなど日本ではとても想像できないアメリカ特有の文化に触れることが出来ました。

2日目に世界最大の航空機会社であるボーイング社エバレット工場を見学しました。工場内では、初日の成田空港の施設見学で見た「JA869J機」の次の航空機となる「JA870J機」の尾翼や胴体などの組み立てに使われる部品を見て、実際に触れることもできました。工場内には、およそ3万人の人が働いているとのことでした。工場見学の後、現地の高校生と一緒に昼食をとりました。最初は、お互いに初対面だったので緊張し、なかなか話がはずみませんでした。事前に英語で用意した質問をしてみると、とてもうれしそうに答えてくれました。早い現地の英語を聞き取れない私に気をつけて1つ1つの単語をゆっくり丁寧に話してくれたことに対し彼らの優しさを感じました。お互いが徐々に打ち解けてくると彼らから質問がされました。答えられる質問もありましたが、内容を聞き取れず回答に困った場面もあり、もっと英語を上達させたいと強く感じました。その後、アメリカン航空にてフェニックスへ向かいました。フェニックスはとても暑く、乾燥していて岩石砂漠と呼ばれる砂漠帯にあるということでした。

翌日、JALの乗員訓練所を見学しました。

訓練所では、小型ジェット機の操縦席に座り、シミュレーター体験をしました。屋外の気温が高いうえに、操縦席はせまかったので、より一層暑さを感じました。フェニックスの快晴率は365分の300ととても高く、天候を心配することなく訓練をスケジュール通りに行うことができるため、この地に乗員訓練所ができたということでした。

4日目は、サウスウェスト航空にてロサンゼルスへ向かい、機内食工場を見学しました。工場内はとても寒く、従業員の方々は厚いコート着て作業をしていました。また、イヤリング等のアクセサリ、ネイル、濃いメイクが禁じられていて安全面、衛生面で

の配慮がされていました。

午後からのユニバーサルスタジオ見学では、「1ST VISIT」のバッチを頂いた時、キャストさんが「お元気ですか？」と日本語で明るく声をかけてくれました。英語が飛び交う中、日本語で声をかけられとても嬉しかったです。

5日目は、ロサンゼルス航空を見学しました。ロサンゼルスは、2024年のオリンピックの候補地にされており、空港はそれに向けて施設の拡張工事をしている最中でした。

JAL061便で日本へ向かう途中、CAさんに仕事について話を聞くことができました。スケジュール通りのフライトの中で、常に安全を第一に考えていることを聞き、華やかな仕事である反面、仕事の責任の重大さは常にCAさんの心の根底にあると思いました。



私は今回の研修を経て、自分の将来について考えるようになりました。乗客が快適な空の旅を過ごせるようにサポートしながら、常に安全を心がけ、笑顔で楽しそうに仕事をしているCAさんは、私にはとても輝いて見え、いつか私もCAの仕事をしてみたいと思いました。

初めての海外で不安な気持ちでいっぱいでしたが、浜崎さん、上野さん、高野さん、そして5人の仲間や現地のガイドさん等多くの方々の支えがあり、楽しい充実した6日間を過ごすことが出来ました。今回の研修で多くの出会いをし、すばらしい思い出を作ることが出来ました。この研修に関わった多くの方々に感謝しています。



「飛行機一機が飛ぶために」

芝山町立芝山中学校 佐久間 詩織

私は学校でこの研修の話聞いた時、絶対に行きたいと思いました。私の住む地域では、空を見上げればいつも飛行機が見られます。それなので研修に行けることになったときは、本当に嬉しかったです。

初日の開始式では、ほとんど初対面の仲間でもとても緊張しましたが、皆話しやすいので安心しました。目標を発表したときには本当にこれからアメリカに行くのだと、胸が高鳴りました。成田空港施設見学では、5日前に届いたというボーイング787のJA869を見ました。機体がカーボンできていて、塗装をはがしたら真っ黒だということを知ってとても驚きました。そしていよいよ両親に見送られ、全日空で日本を旅立ちました。



機内では、客室乗務員の方にお話を伺いました。客室乗務員の方は近寄りやすい人が多いのかなとおもっていましたが、しかし全くそんなことはなく、ずっと笑顔で対応してくださり、その笑顔がとても印象に残りました。「大切にしていることは何ですか」という質問をすると、「健康でいること」や、「話しかけやすい態度でいること」でした。そういう心がけが快適なフライトを作っているのだなと思いました。そして飛行機からシア

トルの町並を見たとき、本当に来たのだと思ってワクワクしました。到着後、市内観光をしました。シアトルの方とお話したり、アメリカの空気を感じたりできました。その日の夕食のステーキは、すごい量でびっくりしましたが皆と楽しく食べることができて、良かったです。

2日目はボーイング社エバレット工場の見学でした。世界一容積の大きな工場と聞き、想像もつきませんでした。実際に見ると本当に広くて、ちょっとした町みたいでした。最初に足を踏み入れて思ったことは、働いているひとの服装がとてもラフなことと、女性の方も多いということです。さすがアメリカと思いました。実際に作っているところを見学して、どんどんシンプルな構造になっていることや、組み立ては数日で終わってしまうことなど、色々なことを学びました。日本にくる飛行機の胴体を触らせていただいたときには、これが私の町の空を飛ぶのだなと感動しました。午後からは現地の高校生と交流しました。人見知りで最初はあまり話すことができませんでしたが、たくさん話しかけてくださり、最後にはとても楽しく会話することができました。フェニックスへの

移動で乗ったアメリカン航空では、客室乗務員の方に男性が多かったり、たくさんの年配の方が働いていたり、日本の航空とまた違った感じで楽しかったです。

3日目は乗員訓練所の見学で、シミュレーター体験をしました。私はあまり器用な方ではないのですが、パイロットの方が優しく教えてくださり、とても楽しかったです。

本当に貴重な体験でした。その後、外に出てシミュレーターで乗ったのと同じ訓練機に乗ると、とてもわくわくしました。しかし、つつこみたくなるくらい暑かったです。それにも理由があってフェニックスは晴天日数が年間で300日もあり、訓練に向いているのだそうです。午後からのセドナツアーは本当に楽しかったです。



アメリカにもサボテンが生えているのだなと思いました。そして周りを見渡せば壮大な景色が広がっていて、やっぱりパワースポットだなと思いました。皆とたくさん写真を撮ったり、色々な話をしたりして、より一層仲が深まりました。

4日目は機内食工場を見学しました。オートメーションではなく、意外と手作業が多いなと感じました。予想と違ったので驚きました。様々な国の人が働いていて、機内食にもたくさんの人が関わっているのだなと思いました。その後に食べたビジネスクラスの食事は、見た目もきれいで食べるのがもったいないくらいでした。しかし、ちょっと塩気が多いなと思っていたら、気圧が低くなると、味覚が鈍るのでこれくらいがちょうどいいと聞いて納得しました。その後ユニバーサルスタジオに行きました。日本でも行ったことがないのですごいなと思いました。皆とたくさん話をして、アトラクションを楽しんで、とても充実した時間でした。お土産を買うときにしたアメリカの方たちとの会話も楽しかったです。

最終日、ロサンゼルス空港の見学をしました。アメリカ全体でテロへの危機感が高まっていて空港でも対策に力を入れているということでした。安全な空の旅はたくさんの人の仕事のおかげなのだなと感じました。帰りの日本航空の機内でも客室乗務員の方のお話を伺いました。客室乗務員の方は素敵な人ばかりだなと改めて思いました。

この研修で私は、飛行機を一機飛ばすために多くの方が働いていることを実感しました。これからも航空のことについてたくさん学んでいきたいです。最後になりましたが、研修先でお世話になった方々、現地の高校生の皆さん、浜崎さん、上野さん、高野さん、貴重な体験を本当にありがとうございました。

「広がる夢」

香取市立小見川中学校 高橋 里

私がこの研修で学んだことはたくさんありますが、特に印象的だったことが四つありました。

一つ目は、成田空港施設見学です。成田空港に勤めている方でもなかなか見ることができないところがあると聞いて、とても楽しみにしていました。私は飛行機が好きですが、空港の施設などについては深く考えたことがなかったので、どのような工夫がされているのだろう、どんな機械があるのだろう、とたくさんの疑問が頭に浮かんでいました。実際に空港の中を回ってみると想像していた以上に広く驚きました。話を聞くと、滑走路だけで何キロメートルもあるということ、空港の敷地面積は 1900 ヘクタールであること、どちらも数字を聞くだけではどれくらいなのかわからないくらいの広さでした。また、飛行機に貨物専用があるのを初めて知りました。私たちが普段乗っている旅客機と比べて、大きく違ったのは窓がないということでした。「荷物を運ぶだけだから窓がないんだよ」とおっしゃっていました。このように用途に応じて飛行機を選べるよう工夫されていることに気がきました。



二つ目は、客室乗務員の方々の仕事について学んだことです。客室乗務員の方々の仕事は主に機内のチェック、アナウンス、食事・飲み物を配るなどたくさんありました。揺れている機内の中でも仕事やお客への対応は丁寧で気持ちよく、安心して飛行機に乗ることができました。また、客室乗務員の方々は、笑顔と姿勢がとてもきれいでした。笑顔について心がけているのは口角を上げること、歯を見せて笑うこと、目も笑うことだと教えていただきました。メイクや接客の訓練なども行っていると伺いました。明るくきれいな客室乗務員の方々は努力を積み重ねて仕事をしているのだと思いました。私の将来の夢は「客室乗務員」ですが、この研修で仕事の内容などを学んで、体力、やる気、根気が必要なのだと感じました。やはり、どのような職業にも努力は必要だと思うので、大人になったとき、客室乗務員として飛行機に戻ってこられるよう私も努力を積み重ねたいと思いました。自分の将来について深く考えることのできた体験となりました。

三つ目は、ボーイング社エバレット工場見学です。バスの中から見たエバレット工場はとても大きくて、「この中に飛行機の部品があるんだ！」と思うと胸が熱くなりました。工場の中に入ると、数え切れないほどの種類の部品がありました。製造途中の飛

行機もあり感動しました。工場の中にある一つ一つのものに迫力があって、圧倒されました。また、飛行機の値段についても初めて知ることができました。飛行機の値段は1台で安くても数百億円するそうです。あまりにも高額だったので、自分の耳を疑ってしまうほどでした。飛行機1台を、数百億円のお金、また多くの人の技術や時間を使い作り上げるのだ、と知ることができ良かったと思います。そして、私がエバレット工場が一番心に残ったのはJA870Jに触れることができたということです。私たちが見たときJA870Jは完全にはできあがっていませんでしたが、触らせてもらいました。真っ白で、汚れが一つもない飛行機は今にも飛んでいきそうなくらい迫力があるものでした。このときのJA870Jが9月には飛ぶそうなのでとても楽しみです。

四つ目はフェニックス JAL 乗員訓練所の見学です。訓練所ではシミュレーターを使って飛行機の操縦を練習しました。教えてもらいながら操縦しましたが、高さの調整や離陸、着陸がとても難しかったです。パイロットの方々は長時間集中力を切らさないで操縦しているのだと考えると、尊敬と感謝の気持ちが湧いてきました。



外では練習用の小型のジェット機を見て、実際に乗ってみました。窓を閉めると、とても暑く驚きました。長時間乗っていると熱中症や脱水症状になってしまうのではないかと思います。飛行機を操縦するには、体力と強い精神力・集中力が必要だと思いました。

私は、今回の研修で貴重な体験をすることができました。また、空港関係の仕事にたくさんの人々が関わっていることを知りました。私は前よりももっと強く空港関係の仕事に就きたいと思うようになりました。今回の研修で学んだことを生かし、将来の夢を叶えたいと思います。このような貴重な研修の機会を与えてくださり、ありがとうございました。



「僕にとっての中学生海外研修」

多古町立多古中学校 平山 健太郎

僕はこの研修を先生から「参加してみないか。」と勧められて知りました。最初は英語があまり得意ではないことや、部活動の大会と同じ日などの理由から参加しようか迷いましたが、滅多にない体験なので参加させていただきました。

研修初日は、まず開始式がありました。そこでは、一人ずつ目標を発表しました。僕の目標は、「アメリカと日本の食文化の違いは何か」でした。なぜこの目標にしたかという、短期間で一番身近に感じられるのが「食」という分野だと考えたからです。アメリカに行く飛行機から帰国の飛行機まで 14 食を口にしました(間食を除く)。そのうち機内食を除くとアメリカでの食事は 11 食でした。肉の種類としては牛肉を焼いたものが多く鶏肉や豚肉はほぼ見かけませんでした。特に印象に残った事が二つありました。

一つ目は量や大きさについてです。まず、初日に食べたステーキで違いがありました。日本では肉の重さの単位はグラムで表しますが、アメリカではオンスで表しました。また、ステーキの付け合わせの量もそれだけでも足りてしまうような多さでした。3日目の昼食にはハンバーガーを食べました。ハンバーガーは日本より少し多いくらいでしたが、セットのドリンクの量がとても多かったです。僕はSサイズを注文したのですが日本のLサイズくらいに感じました。

二つ目は味についてです。アメリカでの食事は日本より味が濃くて量を食べられませんでした。ステーキを食べた際にそれを強く感じました。僕のステーキの量は7オンスで 200 グラムくらいでしたが、思ったよりも味が濃くて、いつもなら食べられる量を残してしまいました。また、パスタを食べたときもパスタの量はあまり多くないのですがソースの味が濃くて、食べた後苦しかったです。

研修を通して目標にしていた「アメリカと日本の食文化の違い」はいろいろな食事を通してわかりました。日本よりも味が濃い食べ物が多いことや、量が多いことなどからアメリカの人は濃い味が量が多い物を好む傾向があるということがわかりました。以上のことから研修の目標は達成できたと思います。

その他にも勉強になったことがあります。初日の研修は成田国際空港でコントロールタワーや JAL のハンガー(格納庫)を見ました。ハンガーでは後に行くエバレット工場から来たばかりのボーイング 787 がありました。787 は最新型のもので、従来の飛行機より燃費が良いことや、機内が乾燥しにくいことなどを学び、飛行機の性能は日々

進歩していると感じました。空港見学が終わるとすぐに出国しました。シアトルへは ANA 便で行きました。そこで、僕は生まれて初めて飛行機に乗りました。機内でも研修がありました。研修では「つらい経験があったから今がある」という CA の方のお話をよく覚えています。僕は、自分が就きたくて就いた職業でもつらい経験があり、それを乗り越えなければならない、それが仕事だとこの言葉から感じました。シアトルに着くと市内観光でスペースニードルへ行きました。スペースニードルは 1962 年の万博の時に造られ、約 180 メートルの高さから望むマウントレーニアが素晴らしい光景でした。



2 日目はボーイング社のエバレット工場へ行きました。工場では、ボーイング 787 などの旅客機のほかにも、アメリカ軍の軍用機なども製造されていました。見学では 787 の製造工程も見ました。787 は 4 日に 1 機、月に 7 機造られていて、思ったよりもできるペースが速く驚きました。それは、787 の部品は契約している世界中のメーカーから送られて来て、エバレット工場では組み立てるだけだから、早いペースででき上がるそうです。

この後、フェニックスに移動しました。3 日目は JAL の乗員訓練所へ行きました。ここでは、パイロットをしていた人が教官をしていて、フライトシミュレーターなどを体験しました。そのシミュレーターは実際に訓練生も使っているもので、素人にはとても難しく教官の方に助けていただいて何とか飛ぶことができました。



4 日目はロサンゼルスに移動した後、機内食工場へ行きました。工場では白衣と帽子を身につけて、中に入りました。中はとても寒く衛生面に気を付けていることがわかりました。

僕は中学生海外主要空港派遣事業に参加させていただいて、その貴重な体験を通して空港はたくさんの人で成り立っていることがわかり、自分も将来その一員になって海外で働きたいと強く思いました。また、最初は知らない 5 人の仲間と上手くやっていけるか不安でしたが、みんな優しく面白い人たちで仲間からもいろいろなことを学びました。

最後に、研修でお世話になったガイドさん、成田国際空港の方々、CA のの方々、機内食工場、JAL ロサンゼルス支店の方々に感謝します。そして引率の浜崎さん、上野

さん、高野さんのおかげで僕たち 6 人はいつも和やかな雰囲気であることができました。6 日間貴重な体験をさせていただきありがとうございました。この体験をこれからの生活や進路に活かしていきたいです。

「将来の夢への第一歩」

稲敷市立新利根中学校 古山 高男

私はこの夏、一生分の運を使ってしまったのではないかと思うような貴重な経験をさせていただきました。それは、「空の日」中学生海外主要空港派遣事業に参加できたことです。私は、飛行機に大変興味があります。幼い頃から、家の外に出ては、大きな飛行機が飛んでいるのをいつも眺めていました。また、祖父の兄弟が飛行機の整備士をしていたこともあり、よく飛行機の話をしてもらいました。

そして将来は、航空自衛隊のパイロットになるか、飛行機の整備士になりたいと考えています。だから今回の研修は、私にとって、とても楽しみにしていたものであり、貴重な学びの機会となりました。

研修の一日目は、成田空港の施設を見学しました。目の前で離陸していく大きな飛行機を見たときは、その大きさと迫力に感動しました。さらに、大きな飛行機が百機以上も駐機していると知り、空港の大きさにも驚きました。施設見学の中では、納入されたばかりのボーイング787も見ることができました。機体を動かす際には、電気信号で動かしていることなど、これまで知らなかった機体について学ぶことができました。何より新しい機体を間近で見ることができ、感動しました。

研修二日目は、アメリカのシアトルにあるボーイング社のエバレット工場を見学しました。ここは、ジェット機を実際に製造しているところでした。今回の研修で一番楽しみにしていたのが、飛行機の製造工程を見学することでしたので、興味深く見学しました。ジェット機を造っているだけあり、工場の敷地はとても広く、たくさんの方が働いていました。ここでは、軍用のボーイング767も造っていました。軍用機と民間機を同じところで造っていたのには少し驚きました。やはり飛行機を造るためには、同じだけの精密な技術と施設が必要なのだと感じました。機体の造られ方は大変おもしろく、徐々に奥から外へと出来上がり、試験飛行ま



でできるようなシステムでした。機体本体を造っているところは、想像していたよりも狭く感じましたが、工夫されたスペースの使い方に納得しました。

見学を終えると、現地の学生と交流をもつことができました。自分たちよりも年上の方だと聞き、緊張していましたが、とてもフレンドリーに笑顔で接してくれたので、すぐに打ち解けることができました。つたない英語でしたが、お互いに理解し合えた気がしました。

研修三日目は、フェニックスにある JAL 乗員訓練所を見学しました。飛行機の操縦士の養成について、資料からは旅客機について詳しく学ぶことができました。また、飛行機操縦のシミュレーターにも挑戦しました。操縦席や映像が忠実に再現されており、まるで本物の飛行機を操縦しているようでした。その後、実際の操縦席にも座らせていただき感動しました。



次にアリゾナ州のパワースポット:セドナに行きました。セドナは大きな赤い岩がいくつも連なっており、日本では絶対に見ることのできないような迫力ある風景でした。広大な風景に魅了され、しばらく言葉が出ませんでした。

研修四日目は、フェニックスからロスアンゼルスに移動して、機内食を作っている工場の見学をしました。工場の機械で大量生産をしているのだと考えていましたが、機内食の多くは、人間の手で作られていると知りました。機内食がおいしい理由がわかったような気がしました。一つ一つの食材を丁寧に扱っていて、乗客の気持ちを考えて作っていることがよく分かりました。

研修五日目は、ホテルで研修の振り返りミーティングを全員で行い、ロサンゼルス空港から JAL 便で日本に向かえました。帰りの機内で、機内研修を行いました。客室乗務員の方から、乗客との接し方や安全への意識、常に心がけていることなどを教えていただきました。自分の仕事に責任と誇りをもって、行っていることが伝わってきました。どんな時も笑顔で仕事をしていると話す客室乗務員の方の表情が印象的でした。これは、私の今の生活にもすぐに生かせることだと感じました。相手のことを考え、自分のやるべきことに責任をもってあたることを心がけたいと思います。さらに、周囲を笑顔にさせるような笑顔で、私も生活したいと思いました。

今回の研修は、五日間という短いものでしたが、多くのことを学びました。何気なく空を見上げて、眺める飛行機に、たくさんの人の力や思いが込められていると知りました。この研修で学んだことを自分の将来や学校生活に役立てていきたいと思います。

このような貴重な研修の機会をいただき、ありがとうございました。

5. 編集後記 引率者より メッセージ

◆ 成田国際空港㈱ 高野 裕子

皆さん、お久しぶりです。

長い夏休み終わり、新しい学期を迎えているころでしょうか。一週間というあっという間の研修でしたが、皆さんの夏休みが更に充実したことでしょ。

初めての海外、初めての時差、初めて親元を離れての旅行。ワクワクする一方、緊張や不安もあったことでしょう。しかし、日にちを重ねるごとに頼もしくなり、それぞれの中学校から集まった仲間同士助け合いながら、色んなことを吸収しようという姿はとても印象的でした。

皆さんはこの研修で色んな“気づき”を得たことと思います。

6日間で得た気づきはそれぞれだと思いますが、皆さんが乗った飛行機が安全に飛んでくれること、海を越えて行きたい国に旅行ができること、空の上で快適に過ごせること、世界中の空港でお出迎えをしてくれる方がいることを、肌で感じたことと思います。「一機の航空機を飛ばす」ためには、国境を越えてたくさんの方々が関わっているということです。私自身も一空港職員として、再確認した貴重な時間でした。

また、文化の違う国で戸惑うことがたくさんあったことでしょう。そんな中、研修先でお世話になった方々や現地の高校生は皆さんを温かく迎えてくださり、皆さんもそれに応えるように、最初は不安だった英語でも積極的に会話をしたり、日本との違いを目や耳などで感じとったりと、勉強したことと思います。文化や言語は違いますが、お互いのことを思いやり、こちらから相手に寄り添う気持ちが大切だと思います。今回の6日間もそれぞれ違う中学校から参加した6人が研修を達成させるために、仲間を思いやりながら望んだ研修は、今後の学校生活においてもきっと活かされることでしょう。

今回の研修を通して、航空に関する知識だけでなく、将来の夢や目標ができたのではないのでしょうか。ぜひ目標(夢)を持ち続けてください。大きな夢ではなくとも、自分なりの夢を持ち続け、追いかけてください。必ず夢は叶います。私も学生の時に、世界中の人たちが行き交う玄関口の「空港」に携わる仕事に夢を抱き、お陰様で今では微力ながらも、お客様と空港に関わる仕事に就けております。今でも夢を抱いた当時のその気持ちは忘れておりません。空港や航空関係でなくとも、是非“夢”を持って今後の学生生活を充実させていって欲しいなと願っております。

最後になりますが、皆さんの研修をサポートくださった、現地の関係者様はじめ、



JAL財団の浜崎様、添乗員の上野様、大変お世話になりました。また、保護者の皆様、中学校の先生方には、大切なお子様をお預けいただき、誠にありがとうございました。

私自身も大変貴重なお時間を過ごさせて頂くことが出来ました。この場をお借りしまして、感謝ならびにお礼を申し上げます。

◆ (公財) JAL財団 添乗員 上野 友子

★空の日に参加された皆さんへ

皆さんお元気ですか？

現地からの絵葉書は届きましたか？

今は目標に向かって日々努力されていること
と思います。

ご家族や学校の先生はじめ、お友達には空の
日の体験をどのようにお話されたのでしょうか？

6日間を通じて体験されたたくさんの出来事を仲間にしつかりと伝えること、を目標に
していた生徒さんもありましたね。きちんと伝えることはできましたか？そして6人の仲
間の皆さんともそれぞれ連絡を取り合っているのでしょうか？

毎回感じるのですが、初めて皆さんにお会いした説明会の時よりもその1ヶ月後
の出発前の研修開始式の時のほうが、そして出発前の開始式よりもその僅か5日後の
解散式の時のほうがより明るい表情でご自分の意見をはっきり述べられ、研修でたくさ
んの貴重な体験をされたことへの充実感や満足感を側で感じる事ができとても嬉しく
思います。

最初はどのような研修が行われるのか期待や不安があったことと思いますが、こうし
て研修から数ヶ月が過ぎて、その内容の濃さや貴重な体験の数々、そして出会った
方々、お世話になった多くの方々に改めて感謝し、この派遣事業に参加して本当に
良かったと感じて頂けたらとても嬉しいです。この体験が皆さんの将来の夢を広げ、
力となってくれることを願っています。

そして今回お世話になった航空関連の様々な場で活躍されていらっしゃる方々と近
い将来いつか肩を並べて、一緒にお仕事できる素晴らしいご縁に巡り合えたならば
本当に素晴らしいですね。

最後になりましたが、この空の日の事業に貴重なお時間を注いで下さいました多く
の皆様にご心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



◆（公財）JAL財団

リーダー 浜崎 明美

皆さん、こんにちは。あの暑い夏の研修がほんとうにあったのかなと思うくらい、季節は変わりました。皆さん、元気に勉学に励んでいますか。

7月30日、成田に到着後すぐの解散式の時、まず皆さんに聞きました。「この研修に参加してよかったですか？」「目標を達成できましたか？」「皆と仲良くなれましたか？」と。すぐに全員が「もっと一緒に研修をしたかった！」とピシッと手を挙げてくださいました。嬉しい回答でした。新しい仲間と共有したこの体験がひとりひとりの心に深く刻まれた尊い研修であったことを皆さんの瞳の輝きからもわかりました。

分刻みで行動するとっても忙しい6日間ですが、この研修は多くの方々の優しく真心のこもった細やかな手配で組み立てられた充実した素晴らしい研修ということを実感したことでしょう。手配して下さったたくさんの方々に感謝ですね。

学校の授業を越えて、航空業界のあらゆる仕事を学び、体験し、また、海外で仕事をもち、生活している方々のお話を直接聞くことができたこの貴重な経験は、自分の世界を大きく広げたことと思います。この研修で得た気づきや経験が、皆さんの“今の夢”を越えてもっともっと大きな世界で活躍する原動力となってくれるものと確信しています。“今”というこの瞬間は、あっという間に”過去“になってしまいますが、“今”の積み重ねが未来です。自分が「信頼されていること」を心にしっかりと刻み、感謝の気持ち忘れず、これからも“今”を大切に、自分を磨きながら一生懸命未来に向かって歩んでください。

皆さんと一緒に6日間は、私にとっても楽しく心豊かな6日間でした。エネルギーをいっぱいいただきました。どうもありがとうございました。

最後に、ご多忙の中、関係先と調整をし、温かく迎え、細やかに丁寧にご案内くださった関係各社の皆様に心より感謝申し上げます。



6. 「空の日」中学生派遣事業一覧

| | 実施年月日 | 派遣地区 | 人数 | 派遣先 |
|----|----------------|------------|------|----------------------------------|
| 1 | 1994.8.30-9.05 | 成田 | 8 | 欧州 (パリ・フランクフルト) |
| | 1994.8.30-9.05 | 中部 | 6 | 米国 (ワシントン・アトランタ) |
| | 1994.8.30-9.04 | 関西 | 7 | 東南アジア (ジャカルタ・シンガポール) |
| 2 | 1995.8.27-9.02 | 成田 | 8 | 欧州 (ロンドン・アムステルダム) |
| | 1995.8.25-8.31 | 兵庫 | 8 | 米国 (ロサンゼルス・シカゴ) |
| 3 | 1996.8.26-9.01 | 成田 | 8 | 欧州 (パリ・ミュンヘン) |
| | 1996.8.25-9.01 | 阪神 | 8 | 米国 (ニューヨーク・サンフランシスコ) |
| 4 | 1997.8.25-8.31 | 成田 | 8 | 欧州 (パリ・ロンドン) |
| | 1997.8.24-8.31 | 神戸 | 8 | 米国 (ニューヨーク・シカゴ) |
| 5 | 1998.8.19-8.21 | 新潟 | 5 | 国内 (大阪・東京) |
| | 1998.8.23-8.29 | 成田 | 8 | 米国 (ニューヨーク・シカゴ) |
| 6 | 1999.8.18-8.20 | 関西 | 5 | 国内 (大阪・東京) |
| | 1999.8.22-8.28 | 成田 | 8 | 米国 (ニューヨーク・シカゴ) |
| 7 | 2000.7.30-8.05 | 成田・千歳 | 12 | 米国 (ニューヨーク・シカゴ) |
| 8 | 2001.7.29-8.04 | 成田・石川県 | 8 | 米国 (ニューヨーク・シカゴ) |
| 9 | 2002.7.24-7.27 | 全国 8 空港地区 | 28 | 国内 (羽田)、アジア (香港) |
| 10 | 2003.7.23-7.25 | 全国 7 空港地区 | 14 | 国内 (羽田) |
| | 2003.7.27-8.01 | 全国 3 空港地区 | 11* | 米国 (ロサンゼルス) |
| 11 | 2004.7.27-7.29 | 全国 14 空港地区 | 27 | 国内 (羽田) |
| | 2004.8.04-8.09 | 全国 3 空港地区 | 10 | 米国 (シアトル、サンフランシスコ) |
| 12 | 2005.7.25-7.30 | 全国 3 空港地区 | 10 | 米国 (ロサンゼルス) |
| | 2005.8.03-8.05 | 全国 12 空港地区 | 24 | 国内 (中部) |
| 13 | 2006.7.25-7.27 | 全国 12 空港地区 | 24* | 国内 (羽田) |
| | 2006.8.01-8.06 | 全国 3 空港地区 | 10 | 米国 (シアトル、サンフランシスコ) |
| 14 | 2007.7.23-7.28 | 全国 3 空港地区 | 10 | 米国 (シアトル、サンフランシスコ) |
| | 2007.8.01-8.03 | 全国 12 空港地区 | 24* | 国内 (中部) |
| 15 | 2008.7.28-7.30 | 全国 11 空港地区 | 22 | 国内 (羽田) |
| | 2008.8.04-8.09 | 全国 3 空港地区 | 11* | 米国 (シアトル、サンフランシスコ) |
| 16 | 2009.7.27-8.01 | 全国 6 空港地区 | 12* | 米国 (シアトル、サンフランシスコ) |
| | 2009.8.05-8.07 | 全国 10 空港地区 | 20 | 国内 (中部) |
| 17 | 2010.7.26-7.31 | 全国 3 空港地区 | 8* | 米国 (シアトル、サンフランシスコ) |
| 18 | 2011.7.25-7.30 | 成田 | 5 | カナダ (バンクーバー) 米国 (シアトル、ロサンゼルス) |
| 19 | 2012.8.21-8.26 | 成田 | 6 | カナダ (バンクーバー) 米国 (シアトル、ロサンゼルス) |
| 20 | 2013.7.30-8.04 | 成田 | 6 | カナダ (バンクーバー) 米国 (シアトル、ロサンゼルス) |
| 21 | 2014.7.29-8.03 | 成田 | 6 | 米国 (シアトル、フェニックス、ロサンゼルス) |
| 22 | 2015.7.27-8.01 | 成田 | 5 | 米国 (シアトル、フェニックス、ロサンゼルス) |
| 23 | 2016.7.25-7.30 | 成田 | 6 | 米国 (シアトル、フェニックス、ロサンゼルス) |
| 24 | 2017.7.24-7.29 | 成田 | 6 | 米国 (シアトル、フェニックス、ロサンゼルス) |
| 合計 | | | 420名 | *絵画コンテスト「空の日」賞入賞者1~2名を含む。 |

